

マイコプラズマ肺炎の流行について(注意喚起)

マイコプラズマ肺炎は3～7年程度の周期で流行するとされておりますが、8月頃より全国的に患者が増加しています。

当県で独自に集計している小児科定点から報告された患者数が、第40週において県で把握開始した2006年以降で過去最多(143人)となり、第42週において更に多い196人になるなど感染拡大しています。

今後も感染者の増加が予想されますので、感染拡大を予防するため、食事の前や排泄後の石けんと流水による手洗いや咳エチケットの徹底をお願いします。

～マイコプラズマ肺炎とは～

原因: 肺炎マイコプラズマ(*Mycoplasma pneumoniae*)という細菌への感染です。

症状: 発熱や全身の倦怠感、頭痛、咳などの症状がみられます。咳は熱が下がった後も長期(3～4週間)にわたって続くことがあります。

好発年齢: 患者の約80%が14歳以下です。

潜伏期間: 2～3週間

感染経路: 飛沫感染(咳やくしゃみで飛散した飛沫の中の細菌により感染します。)

接触感染(細菌が付着した手で口や鼻などの粘膜に触れることにより感染します。)

治療方法: マクロライド系などの抗菌薬で治療が行われます。*

※場合によっては抗菌薬による治療を行わないこともあります。

予防方法: こまめに石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。

くしゃみや咳が出るときなどは、マスクを正しく着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

○ 県全体における小児科定点医療機関*からのマイコプラズマ肺炎患者報告総数

	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週
2020年	1	2	0	0	2	1	4
2021年	4	6	1	0	0	2	4
2022年	2	0	0	0	0	0	0
2023年	1	2	3	0	2	2	4
2024年	38	55	58	82	143	118	196

※マイコプラズマ肺炎(小児科定点): 宮城県が独自で集計しているもの。

(参考)県全体における基幹定点医療機関*からのマイコプラズマ肺炎患者報告数

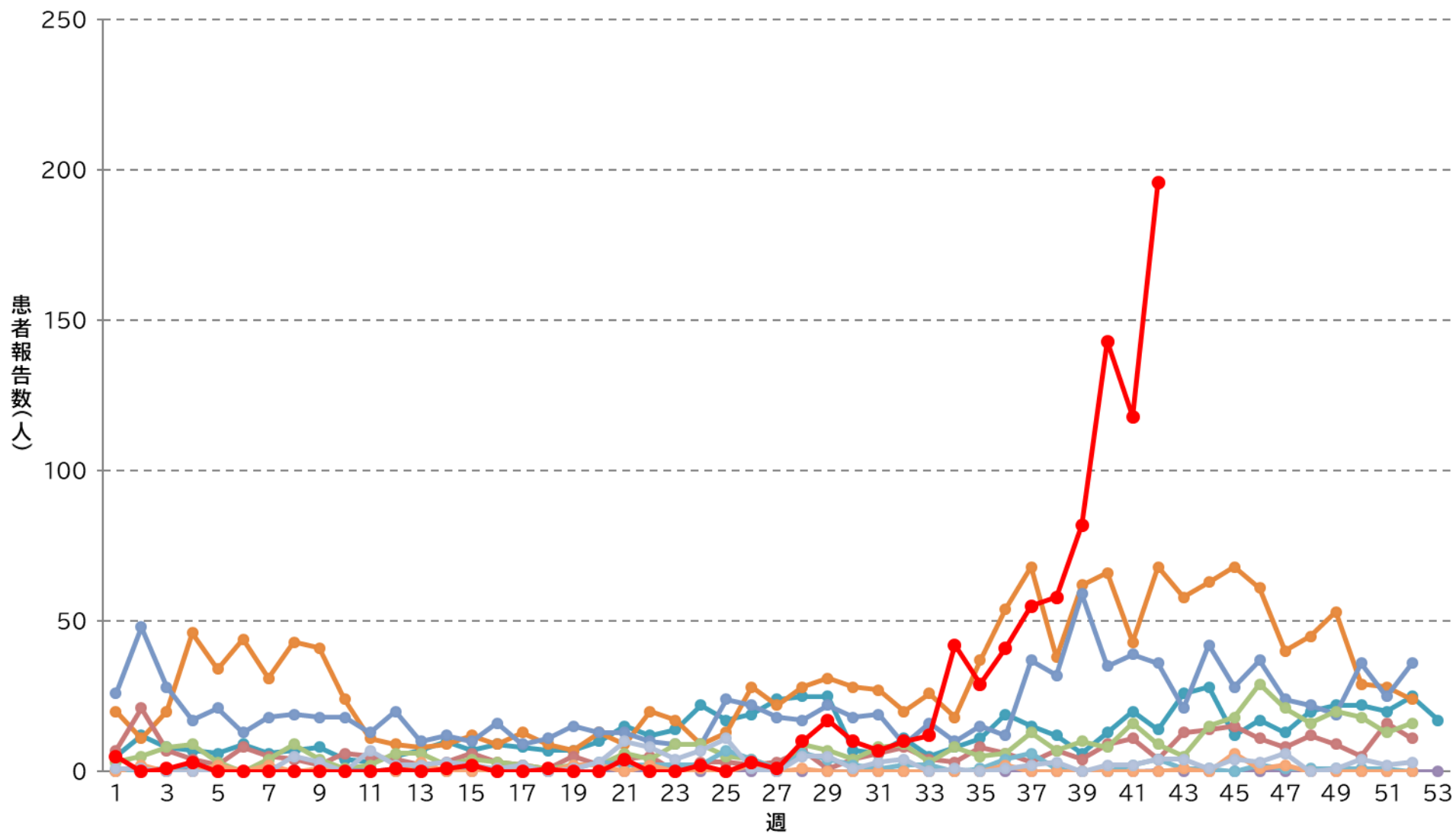
	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週
2020年	0.25 (3)	0.25 (3)	0.33 (4)	0.00 (0)	0.42 (5)	0.67 (8)	0.33 (4)
2021年	0.00 (0)	0.08 (1)	0.08 (1)	0.00 (0)	0.00 (0)	0.00 (0)	0.00 (0)
2022年	0.00 (0)	0.17 (2)	0.08 (1)	0.00 (0)	0.08 (1)	0.17 (2)	0.17 (2)
2023年	0.00 (0)	0.10 (1)	0.10 (1)	0.00 (0)	0.00 (0)	0.10 (1)	0.00 (0)
2024年(県)	0.50 (5)	0.90 (9)	0.70 (7)	1.20 (12)	1.10 (11)	1.20 (12)	1.10 (11)
2024年(全国)	1.22 (585)	1.41 (675)	1.48 (712)	1.64 (788)	1.94 (931)	1.95 (935)	—

※マイコプラズマ肺炎(基幹定点): 全国各地で集計しているもの。

上段: 定点当たり報告数

下段(): 患者報告総数

宮城県内におけるマイコプラズマ肺炎(小児科定点)患者報告総数



● 2015年 ● 2016年 ● 2017年 ● 2018年 ● 2019年 ● 2020年 ● 2021年 ● 2022年 ● 2023年 ● 2024年